

爆傷：麻酔科医の知るべき対応方法

Blast injury: The essence for anesthetist

*鈴木 隆雄¹

*TAKAO SUZUKI¹

1. 合同会社クルディ・メディカル

1. KURDI MEDICAL LLC

爆傷が生物・化学兵器ではなく、鉄片を飛散させるタイプの場合、その対応は普通の戦傷外科と変わらない。どんな爆発方法でも砲弾が爆発したときと同様、爆風の影響は軽微で近距離であれば、爆薬による火傷、そして鉄片による肉体の損傷である。汚染創にはデブリードマンを行なうが、そのあと開放創ではなく直ちに縫合する医療人が多い。これでは創部感染が治まらず、適切な麻酔・集中治療を施したとしても医療成績は向上しない。